

環境研究プロジェクトにおける 地域住民と研究者のかかわり - 琵琶湖 - 淀川プロジェクトを事例として -

2007年7月26日(木) 17:30-19:30
総合地球環境学研究所
田中 拓弥

琵琶湖 - 淀川プロジェクト



目次

- 琵琶湖 - 淀川プロジェクト
- 彦根市稲枝地域
- サブプロジェクトでの地域住民と研究者の関わり
- コンセプトと現場の状況
- 環境研究者の立場の違い

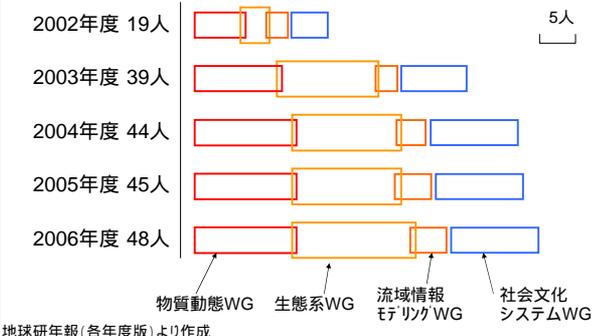
琵琶湖 - 淀川プロジェクト



琵琶湖 - 淀川プロジェクト

- 2002年4月～2007年3月
- 地球研の第一期の研究プロジェクトのひとつ
- 「階層性を考慮した流域管理モデル」に向けた実践的研究
- 環境診断の手法
- 環境管理に向けたコミュニケーション支援の手法
- 農業濁水問題
- 琵琶湖 - 淀川流域 (彦根市稲枝地域)

琵琶湖 - 淀川プロジェクト - チーム編成 -



琵琶湖-淀川プロジェクトの骨組

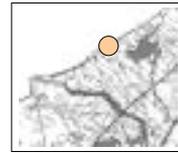
- 地球研の中でおこなう研究プロジェクト
 - 地球環境問題の解決に向けた学問創出のための総合的研究
 - 研究体制: 研究プロジェクト形式(2002年4月~2007年3月)
- 琵琶湖-淀川プロジェクトがおこなう研究
 - コンセプト
 - 「階層性を考慮した流域管理モデル」に向けた実践的研究
 - 環境診断の手法
 - 環境管理に向けたコミュニケーション支援の手法
 - 研究者のチーム編成
 - 4つのワーキンググループで取り組む
 - 研究対象地域
 - 琵琶湖-淀川流域(特に、彦根市稲枝地域)を対象とする
 - プロジェクトが重点的に扱う環境問題
 - 「農業濁水問題」

研究者が初期に決定

聞き取り調査(愛西土地改良区)

(2002年9月~11月,
以降も不定期に実施)

目的: 稲枝地域の概況を調査
研究対象地域の候補
調査者: コアメンバー
地域: 土地改良区(事務局長, 職員)



琵琶湖-淀川プロジェクト(2002年4月~2007年3月)

2001
2002
2003
2004
2005
2006
2007

彦根市稲枝地域

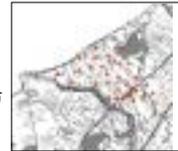
- 滋賀県湖東地域に位置する
- 平野部にあり、水稲栽培が盛んな農業地域
- 13,616人, 4217世帯が居住(2005年)
- 29の農業集落と湖岸及び駅周辺に住宅地がある
- 集落などには自治会組織がある。また、その連合組織としての稲枝地区連合自治会がある。
- 灌漑用水の供給やその維持管理、水路・農道等の生産基盤の管理は、愛西土地改良区がおこなっている。



聞き取り調査(集落等の自治会)

(2003年6月~8月,
以降も不定期に実施)

目的: 集落・自治会の利水等を調査
調査者: 社会文化システムWG
地域: 自治会関係者, 町内に詳しい方
(35自治会, 約100名)



琵琶湖-淀川プロジェクト(2002年4月~2007年3月)

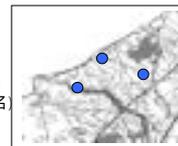
2001
2002
2003
2004
2005
2006
2007

サブプロジェクトでの 地域住民と研究者の関わり

水辺のみらいワークショップ

(2004年1月~3月に実施)

目的: 水辺環境の保全対象地域を
話し合う方法の開発
調査者: 社会文化システムWG
+ (地球研勤務のPrjメンバー)
地域: 3箇所(4集落)の住民(約100名)



琵琶湖-淀川プロジェクト(2002年4月~2007年3月)

2001
2002
2003
2004
2005
2006
2007

圃場調査

(2004年4月～6月に実施)

目的: 農業濁水による負荷量を圃場スケールで求める。(地域の圃場での調査結果をワークショップで用いるため)

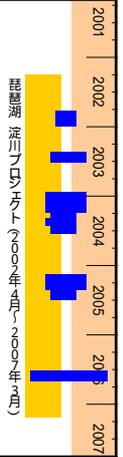
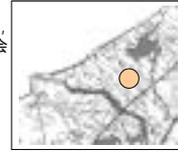
調査者: 物質動態WG
+ (地球研勤務のPrjメンバー)
地域: 地域の大規模農家(4名)
+ 土地改良区



いなえ水辺環境学サロン

(2006年8月に実施)

目的: 研究成果の対象地域への発信, 双方向コミュニケーションの機会
調査者: すべてのWG
地域: 全世帯対象に告知,
(参加者は40名弱)

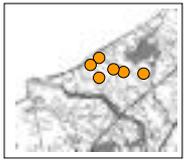


農業と水環境にかかわるワークショップ

(2005年3月～4月に実施)

目的: 情報提供の方法開発, 情報提供方法の違いによる環境意識の変化を社会心理学的に研究。

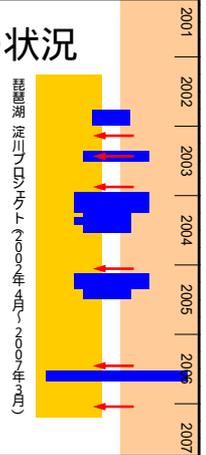
調査者: 社会文化システム(社会心理)WG
+ 物質動態・生態系WG
地域: 6集落の農家(約60名) + 住民



コンセプトと現場の状況

- 地球研の理念や研究者のコンセプト・課題設定にしたがって、トップダウン的につくられたプロジェクトの骨組み。
- サブプロジェクトの実施過程では、地域住民からの積極的な関与が一部で見られる。ただし、地域住民からの提案や要請のすべてに対応できるわけではない。

コンセプトを見直す機会:
コンセプトと同時に、具体的実践の状況を明確化する

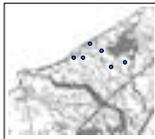


排水路調査

(2004年4月～6月, 2005年4月～6月に実施)

目的: 情報提供のデータ, 情報提供による環境配慮行動の把握

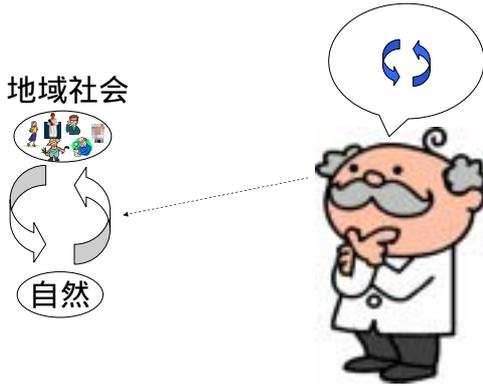
調査者: 物質動態WG + 社会文化システムの一部
地域: 6集落の農業関連役員



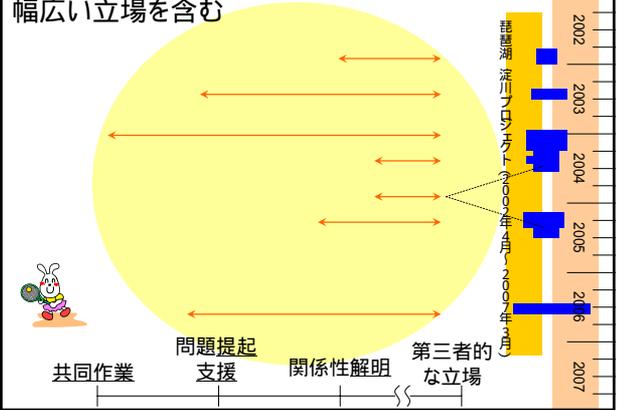
環境調査における研究者の立場

- A. 地域社会と環境の関係を客観的に研究
- B. 第三者的な視点を再考する
 - 研究者の普遍的知識と地域住民の生活知の関係性を解明していくことが重要(三浦)
 - 協働関係構築のあり方に問題提起, 変革主体としての市民のエンパワーメントのファシリテーター(柿澤)
 - 研究過程への人々の参加, 共同作業(井上)

A. 地域社会と自然環境の関係を客観的に研究



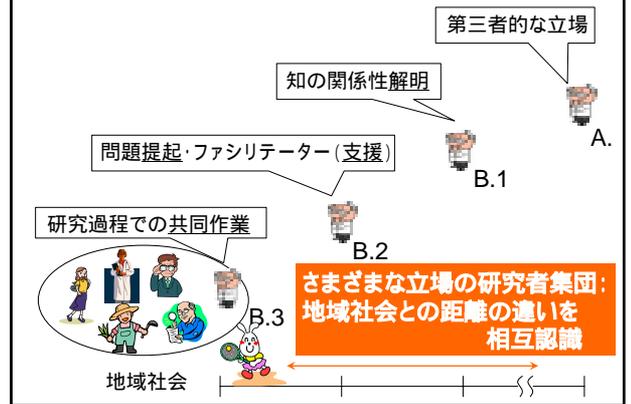
琵琶湖 - 淀川プロジェクト全体では幅広い立場を含む



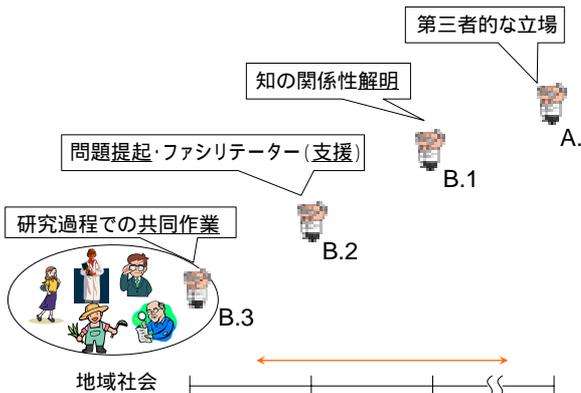
B.3 研究過程への人々の参加, 共同作業



環境調査における研究者の立場



環境調査における研究者の立場



終